

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2970101842		
法人名	有限会社ハヤシ		
事業所名	グループホーム エルハヤシ学園前センター		
所在地	奈良市学園朝日町12-10		
自己評価作成日	令和4年7月5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 Nネット		
所在地	奈良市高天町48番地6 森田ビル5階		
訪問調査日	令和4年7月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームエル・ハヤシ学園前センターは奈良市学園前に開設をして15年を経過した地域密着型のグループホームです。当事業所の運営理念として・音楽をもって心を豊かにする。・人を助けて我が身が助かる(助け合いの精神)・ひとりひとりの尊厳を大切にすることであります。「快適な生活の場」「自立支援サービス」を基本方針とし、利用者及び職員に「和」をもってをその指標としています。年間を通していろいろ季節に応じ た行事を行っています。特にハヤシグループでは音楽を中心として入居者のケアに取り組んでおりハヤシグループ全体の利用者が年に一度舞台での音楽祭を楽しむため当グループホームでも音楽の練習を行っております。また地域の自治会の行事に 参加したり買い物ツアーに行ったり、入居者が楽しく元気で生活しています。

事業所は近鉄学園前駅から徒歩10分位の住宅地の中にある。この建物は元社員寮であったものを改装して約20年になる。3階建であるが、現在入居者が5名となり、2~3階は使用していない。小規模ではあるが、有限会社の一事業所で、看護師及びケアマネージャーも勤務しており、入居者の表情も明るい。管理者を中心に利用者のケアに最大限の力を入れている様子が伺えた。入居者も増やして、経営上の相乗効果が上がる事を期待する。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで、暮らしている。 (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

※セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	音楽でもって心豊かになる。人を助け我が身が助かる(助け合いの精神)。1人ひとりの尊厳を大切にす、というのが理念として現在の状況の中でも地域と共有し入居者が実現できるようまた自立できるように努めている。	理念がパンフレットに記載されている。その一つに「音楽でもって心を豊かにする」があり、毎日入居者で歌を歌っている。ただこの理念は法人全体のものであり、地域密着型サービスを踏まえた事業所独自の理念や目標の制定が望まれる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会に加入しており、現在は自治会と地域と協力しての清掃など一員として交流している。また今後コロナ禍がおさまり催し物や行事等があれば参加したいと思ひます。	自治会に加入して、月1回の会合に管理者が参加し、情報交換を行っている。自治会の行事・祭り等はコロナ禍で中止になっており、現在は参加していない。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在はコロナ禍のため地域の催し物や行事等はなく接触はないものの自治会などの集会などには理解や支援を受けており、それまでの地域の皆さんと交流などから、自治会の集会を通じて地域に貢献できるようにアピールしている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議ではグループホームの行事や活動を、自治会長、民生員、包括支援センターの方々とコロナ禍のため電話等の話し合いや自治会の会合の時の話し合いなどで地域に貢献できるよう取り組んでいる。	コロナ禍でホーム内での運営推進会議は中止しているが、会議のメンバー3名とは管理者が電話で会議内容を話し合い、推進会議の実施としている。議事録も作成し、残している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者に積極的に相談し意見や助言をもらい協力関係を築くように取り組んでいる。市から職員のPCR検査や入居者の新型コロナワクチンの接種の問い合わせなどにも対応している。	生活保護の受給者の方を受け入れており、市の保護課とは緊密に連携して支援している。また、新型コロナウイルス感染症予防やワクチン接種等でも連絡を取り合い、連携をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会や講習会に職員全員が参加している。また内容を理解し身体拘束委員会会議を行い身体拘束のないケアに取り組んでいる。	身体拘束は全くしていない。3ヶ月に1回身体拘束についての勉強会を行っている。居室に鍵はあるが、中から開けられる。防犯カメラは無く、玄関から外には自由に出入れないが、庭には出ることができる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会や講習会に職員全員が参加している。またそれを理解したうえで管理者は職員とともに気を配り虐待がないよう注意を払って防止に努めている。	/	/

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会や講習会に職員全員が参加している。そして自立支援や成年後見人制度を理解し入居者が活用される場合、支援をする体制になっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者が契約の時、家族や入居される本人と面談時に、重要事項書等の書類に従って質問や疑問に答え十分な説明を行っている。また解約や改訂時や退所時も家族や入居者に理解、納得できるよう十分な説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から入居者の家族の方の面会時や電話などで気軽に話し合いができるよう心がけている。今回のコロナワクチンや選挙など実際に意見、相談又は苦情があればすぐに責任者に報告して対応してそれらを運営に繁栄させている。	原則1ヶ月に1回、家族の方に利用料の支払いを兼ねてホームへ来て頂き、話を伺っている。来られない場合は電話で連絡を取っている。その面談内容は記録に残し、ケアに活かすようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見提案を聞く機会を設ける。、個々の入居者の意見を直接職員から聞いたり引き継ぎノートやケース会議及びケア会議などで意見や提案を積極的に出してもらい職場作りに努め意見や提案を検討した後、運営に反映させている。	職員との正式な個別面談はしていないが、一フロアだけなので、常日頃職員間では密接な関係を保ち、意見交換を行っている。本部の会長が2・3月に1回訪問しており、職員との意思疎通も図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者や職員個々の勤務状況を把握することに努め職員個々の考えや希望などで調査して職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は管理者や職員1人ひとりのケアについて観察し把握し話し合い職員会議おこない1人ひとりに応じた指導や研修会を行っている。また月に一度講習会等を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームや介護施設等の同業者との意見の交換を行っている。また同じ自治会での同業者に話を聞いたり他の施設などの介護方法や活動を通じてサービスの質の向上を少しでもできるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	御本人や御家族から入所時の面談のときや入所された時など、事前面談記録や要望を聞いたりまた御本人の様子を見ながら関係作りに努めている。職員会議や記録を残し職員連絡ノートなど利用して職員全員が共有できるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族のかたや御本人との面談及び面会を通して現状及び病歴、不安なことや病院からの看護サマリや要望などを聞き取り関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所された時の面談や御本人と御家族等が必要としている支援内容を見極めてケアマネージャーや病院の相談員などと共にその時に特に必要な支援を優先して柔軟に対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者のみなさまそれぞれが、人生を暮らしてきた中で、職員は入居者同士の喜びや悩み、思い、願いを共感したりして、暮らしを共にする者同士の関係を築くよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現在のコロナ禍で御家族と電話での話し合いなどで入居時や入居後も本人の状況や月に一度の面会など日常の変化や体調など報告をできるだけ行い家族との絆を築きともに本人を支えていく関係を築いている。。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在のコロナ禍の中で家族、友人、知人など常に面会などの支援が難しくなっている。家族以外で馴染みの方の訪問などなかなか受け入れることが出来ないが電話や入金時などで家族の協力を得ながら会話などできるよう努めている。	面会はコロナ禍でも、間隔を離してして貰っている。今の利用者は馴染みの場所が特に無く、お墓参りに行った程度である。入居者は携帯電話を持っておらず、必要な時はホームの固定電話を使って家族と会話している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員全員が入居者同士の関係を把握し入居者それぞれの介護度や個性などで1人ひとりが孤立させないように入居者同士が関わり合い支え合うように、職員が見守り配慮に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了した場合でも相談や問い合わせなど、情報収集を行いこれまでの関係を大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所前や入所時に本人や御家族と面談しそのときに、ADLや入院時の看護サマリなど入所された時などに思いや希望を御家族や本人から尋ねたり、今までの人生や現状の生活の中で雰囲気や思いなどで察するようにしている。把握が困難な場合でも日頃の様子や家族と相談したりして本人本意の支援ができるよう検討している。	病院から移って来られる方がほとんどなので、自宅等を訪問・調査する事はない。音楽療法をしていた名残で、歌の好きな入居者が多く、毎日皆で2時間程ナツメロ曲を歌っている。歌詞帳も人数分有る。	利用者の入居前の生活歴や趣味・特技、生活習慣などの把握に力を入れるとともに、入居後の思い等についてもより注意深く把握し、歌だけでなく他の趣味・娯楽も取り入れたケアの工夫が望まれる。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面談時や入居時に御家族の方から入居者1人ひとりのいままでの暮らしの経過や経験を聞き各入居者に対しその人らしい生活が送れるよう支援に努めている。今までのサービス利用などの記録も管理して全職員が把握できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者の1人ひとりのグループホームでの暮らしの中で僅かな変化にも注意を払い一日の様子や気づいた点をヒヤリハットや引き継ぎノートに記録している。担当職員同士で話し合いやケース会議、ケア会議を行いその時の状態に応じた支援を行えるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がよりよく暮らすため、本人や御家族、入所時の相談員及び病院からのサマリなど意見や要望を把握し反映してケアしている。気づいた点など話し合いをしてそれぞれの意思及びアイデアを尊重し現状に即した介護計画を作成している。	介護計画は、ケアマネージャーが全職員の意見を聞きながら6ヶ月毎に作成している。計画作成後、家族に説明して同意を得て印鑑を貰っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の日々の様子やケアで気づいた点を各利用者ごとに経過記録表や連絡ノートに記録し、ケース会議やケア会議をして職員間で情報共有して、それをもとに実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在コロナ禍で無理はできないが、ハヤシグループの中で特別養護老人ホームなどと連携して、入居者に対して柔軟な支援や対応が可能である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の自治会に入会しており、現在の状況の中でも自治会や地域との社会交流をはかるようにしているが、コロナ禍のため行事などには参加できないものの、連絡は取り合い地域などの行事等は把握し交流し支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び御家族等の希望を大切に、契約時に説明をし納得をえて適切な医療を受けられるように支援している。緊急時には施設の提携病院等で対応できるよう説明しており、家族の希望に添って支援している。	定期健診は、提携先の白庭病院へ職員が付き添って行っている。看護師が週2回のパートで入っており、入居者の健康管理に当たっている。かかりつけ医がある入居者は3名で、家族が付き添って受診している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に職員は入居者と接しており、日々の関わりの中で僅かな変化などを気づいたときは職場内で職員の看護師と連携し、相談をして適切な助言を得て受診や看護を受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院と提携を保ち、疾病時の入院先の病院関係者との情報交換や相談に努め、早期に退院できるようしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期については、入所時や病院に通院のときから家族と方針について確認し話し合いをしている。事業所でできることも十分に説明しながら、状態の変化に合わせてその都度家族と話し合いをしている。協力病院や協力施設などの地域の関係者とも連携をとり、共にチームで支援に取り組んでいる。	近年3名の方が亡くなったが、体制的に看取りは行っていない。終末期には家族の方と話し合って病院に搬送しており、利用者や家族の方には入居時に説明している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内の研修制度で職員全員が応急手当や初期対応の講習会や訓練を受けており、入居者の急変や事故発生時に備え実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼間、夜間を想定した火災や地震水害等の避難訓練を定期的実施している。また自治会の会合に出席し地域との協力体制について日頃から災害時について話し合いをして理解し、常に実行できる体制を築いている。避難訓練は年2回実施している。	消防設備関係は、感知器・スプリンクラー等が設置され、消火器も適切に設置されている。法定の災害訓練も毎年2回実施しており、内1回は夜間想定避難訓練も行っている。備蓄関係も問題ない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	社内で研修会や講習会を開きプライバシーの保護について職員全員が参加して入居者一人ひとりの人格を尊重し、常日頃から言葉がけの対応については職員全員で実施している。	入居者の人格の尊重とプライバシーの確保を図る為、名前を呼ぶ時は苗字に「さん」付しており、居室に入る時もノックをしている。トイレへの誘導は「トイレいこか」と言っているが、他に聞こえない様に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が思いや希望を話すことができるように日頃の会話のときなどから話をよく聞き理解するよう支援している。また会話など言葉で表すことがむずかしい方については表情や動作で行動を理解できるよう、また思いを推し量るような支援を行っている。また記録に残している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースにあわせて起床、食事、入浴、就寝など行っている。一人ひとりのペースに合わせ、施設の中でゆっくりしたい人など、本人の希望にそって支援している。現在は買い物ツアーなど外出などできないが現在の状況が改善し第、希望にそって支援したい。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日頃から身だしなみやおしゃれには気をつけている。普段から服装や身だしなみには気をつけている。朝の起床時、頭にブラシかけている。また外出のときなど利用者の希望に合わせた服装や髪型をしてもらうように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は入居者の皆さんにとって一番の楽しみ。勿論食欲のない時もあるが、食事の準備の時配膳の時などに入居者の皆さんが楽しく食事を行えるようにしている。特に食事の時間には個人差があるため、一人ひとりにあった時間でゆっくり楽しみながら食事してもらっている。	昼・夕食は外部の給食業者が持ってくる食事を提供している。職員は同じ食事を食べていない。1～2名でも検食の意味で一緒に食べるようにすれば良いと思われる。以前は外食に出かけていたが、コロナ禍で現在は行っていない。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	特に夏の暑い時期の食事と水分は摂取量を各個人別に経過記録表に記録している。十分な栄養摂取をすることと脱水状態にならないよう水分の確保が行われているか確認するよう支援している。また摂取してもらうようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事の後、職員が声を掛け歯ブラシなど使いうがいなど口腔ケアを実施している。また、自力でできない利用者は、職員の介助で口腔ケアを行っている。入れ歯の方は定期的に洗浄している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者によって排泄のパターンを把握している。時間を決め習慣を活かして定期的に排泄を促しトイレ誘導を行い、トイレでの排尿・排便を促すことで、気持ちよく排泄ができ、また自立に向け昼間は紙パッドをできるだけ使用しないなど紙パッドの使用を減らす努力をしている。	以前社員寮であったトイレをそのまま利用し、便座は1ヶ所が和式のまま、1ヶ所を簡易の洋式に変えている。男性用の小便器が3箇所ある。全員が紙パンツを使用しているが、時間を決めてトイレ誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	1人ひとりの入居者の便秘に注意を払っている。排便の記録など経過記録表に記録を残している。また水分の摂取量をチェックしたり体操や軽い運動への働きかけを行い御家族や主治医に相談したりして便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴も入居者にとっては一つの楽しみ。シャワーや入浴時間など希望や体調に合わせ、可能な限り入っていただけるよう支援している。今のところ入浴を拒否したりする方はいないが入浴が出来ない方は清拭等をしている。	入浴は週3回行っている。浴槽は広く2~3人が入れる広さで、ゆったり入れる。仲の良い方が一緒に入る事もある。洗顔・シャワー設備も整っている。入浴剤は入れていない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各居室についてはエアコン等で適温と適度な照明の明るさにして静かで安らぐ環境を整えている。日中に適度に体を動かすことにより夜、気持ちよく安眠・休息が得られるよう利用者一人ひとり、生活習慣を整えるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	朝、昼、夕、寝る前と1人ひとりが試用している薬の説明書をファイルしてあり職員は入居者の皆さんに服薬している。それぞれの薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。点眼、貼り薬にも気を付けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者一人ひとりそれぞれが、その日に行う部屋の整理や洗濯物のかたづけなどの役割を担っていただいている。行事や歌を歌ったり会話を交わしたり楽しみごとで気分転換等が実行できるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍のため人との接触をできるだけ少なく外出支援を行っていた。しかし少しずつコロナ禍もおさまりつつあり、少しずつ希望にそった買い物ツアーをしていきたい。また普段いけないような場所は家族等の協力を得て、でかけられるようしたい。	外出支援は行う予定であるが、入居者がコロナ感染を心配され拒否されるので出来ていない。コロナ禍が治まれば再会したい。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の家族よりお預かりしている、まかない金がありそれを利用している。現在は自肅により外出支援の買い物ツアーなど見合わせているが、自肅が終わり次第、買い物をしたりして入居者がお金を所持し使える支援をしたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者本人が希望すれば電話をしたりできるよう支援をしている。またご家族からもかかってくることもある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同の空間、特に食堂についてはテレビやソファを置き、リラックスできるようにしている。職員それぞれが掃除や整理整頓に気を付けている。一階のリホームによりや畳の表替えなどをおこなった、各居室は明るく掃除や整理やベッドメイキングなど居心地よく過ごよう配慮している。また玄関に花を絶やさないようにしている。	リビングは広くないが、清潔に保たれている。庭等の外部には接していないが明るさは充分であり、ピアノも置かれている。幅広の長テーブルが2台置かれており、入居者は男性と女性に別れて歓談・歌・テレビ等で過ごしている。	以前より家族から要望があった様に、トイレの便座を温水洗浄便座に変える等清潔且つ快適な場所に変える様に期待する。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同空間特に食堂兼娯楽室において1人ひとりが限定した場所で過ごすことのないよう心がけている。安らぐ環境の中でひとりゆったりとなれたり、気のあった人同士が過ごせるようにしている。また座る場所をときどき変えたりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室については本人の趣味嗜好があり、御本人や御家族と相談しながら、使い勝手や使い慣れた家具や好みのものを配置し気に入ったものを置いたり、本人が居心地よく過ごせるよう工夫し支援している。	1階の居室は、天井・壁が白色のクロスで張り替えられ、明るく清潔なイメージであった。大きな押入が各室についており、収納は充分である。中の家具・備品の持ち込みが自由であるが、テレビは禁止されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の皆さんがグループホームの中で移動の時も食事の時もまたトイレの時もできるだけ本人自身が自分の思いが主体となった行動ができるように職員同士で介助している。その中で自立支援をしている。		